



## ◆生育状況について

発芽状況については良好である。3、4月の気温が高く推移したため、昨年に比べ7日前後早い生育となっている。(4月末時点)今後の温度変化に注意しながら生育の進みに合わせて作業の遅れがないように注意する。

## ◆第4回の薬剤散布について

散布日 月 日

1. 散布時期 … 展葉7~8枚頃 自園の生育に合わせる。
2. 調合量 … 水1000ℓ 当り

展着剤 …… 10ml  
(アプロードフロアブル …… 100ml) (カイガラムシ類)  
ペンコゼブ水和剤 …… 100g (べと病・晩腐病・黒とう病)

3. 散布量 … 10a当り ⇒ SS・動噴=250ℓ 以上
4. 散布上の留意事項

- ①べと病の初発生(伝染)を防ぐ重要な時期、丁寧に散布する。  
SSで散布の場合は回転数を低くして吹き付けるようにする。
- ②べと病防除のため、今回防除から開花直前防除まで、散布間隔が空いてしまう場合は、キノンドー顆粒水和剤1,000倍(水1000ℓ当り100g)の特別散布を行う。
- ③昨年カイガラムシが発生した園は、アプロードフロアブル1,000倍(水1000ℓ当り100ml)を加用する。  
ただし手散布で主枝・主幹部にムラなく掛ける。

## ◆ブドウ管理講習会開催について

※種あり巨峰については個々にご相談下さい。

開催日	曜	集合時間	開催場所	担当
5月17日	水	午前 9:30	大室 神戸直日様園	松橋
			東部流通センター(現地へ移動開催) 駐車はセンターの南側へ。	外谷
			今井 千野しげ子様園	佐藤
		午前11:00	東条 中村忠勝様園	松橋
		午後 1:30	綿内 宮沢 栄様園	松橋・元田
			石川 南澤ひろ江様園	寺澤
		午後 3:00	綿内 安藤周三様園 塩崎 宮寄正一様園(前回の園になります)	伊藤・元田 寺澤
5月18日	木	午前10:00	真島 小林芳春様園	根津
		午後 1:30	保科 峰村充典様園	根津・元田

## ◆定期的なかん水について

1. 晴天が5～6日続いたら20～30mm程度のかん水を行なう（砂を含む土は4日）  
※1mmのかん水をするには、水1,000ℓ/10aが必要です。樹冠下に集中して行う。
2. かん水後のマルチは水分保持に有効である。霜の心配が無くなってから稲ワラなどのマルチを敷く。

## ◆種なしぶどう（中梢剪定）芽かき作業について

○種枝の芽数によって変える

必須作業

ア 7芽以上の種枝

展葉2～3枚頃、先端1、2芽目のどちらかの芽かきを行う。凍霜害の心配がなくなったら副芽の欠き取りを行う。芽かきが遅れると残った芽が揃わず、新梢生育が悪くなる。その後は園地の混み具合、新梢長のバラツキに応じて随時芽かきを行う（図1）。

イ 4～6芽の種枝

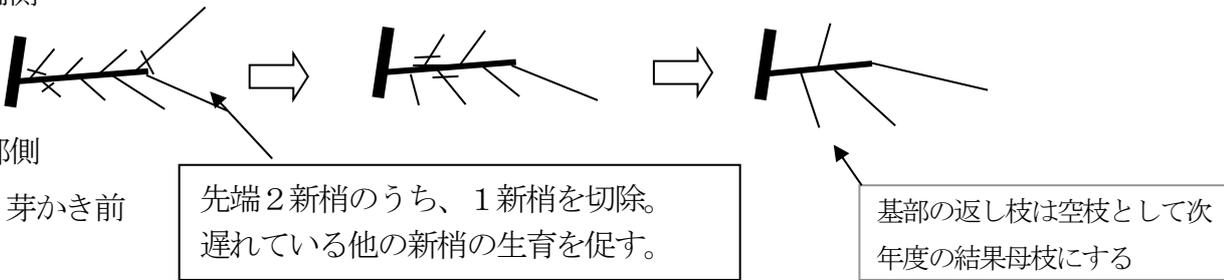
展葉5枚頃 新梢長15cm程度になったら副芽や極端に強い新梢を欠く。

ウ 2～3芽の種枝

誘引する頃に1種枝1新梢にする。

先端側

基部側



7芽以上の種枝の芽かき

## (2) 樹勢が弱い場合や有核巨峰からの転換1年目の園（種枝が細い場合）

○副芽を早めに欠き、強めの新梢に揃える。樹全体の樹勢が弱い場合は先端2新梢を利用する。

先端側



基部側

芽かき前

新梢が弱い場合（巨峰等）

## ◆種あり巨峰について

1. 芽かき作業 《発芽や樹勢に応じて行い、新梢の勢力伸長を揃える》

5月はまだ晩霜の危険な期間である。凍霜害対策は引き続き行い万全を期す。

### 発芽の悪い園

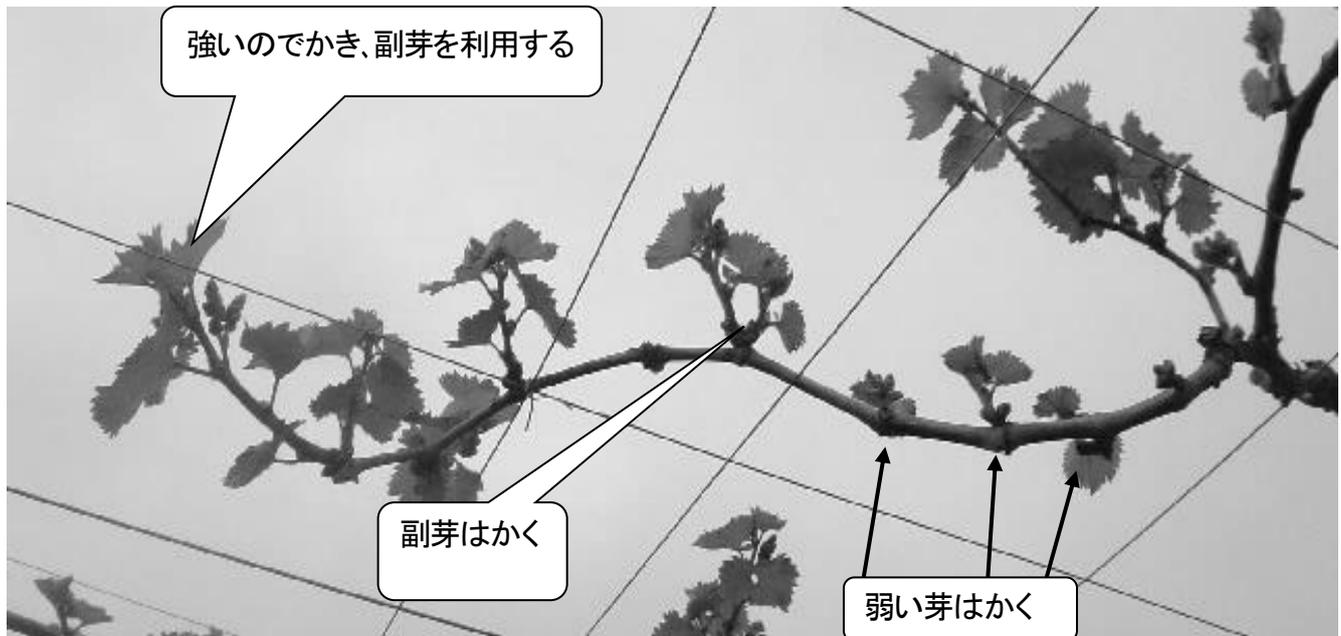
- ①かん水…定期的にかん水を行い、新梢の発芽・伸長を促す。
- ②芽かき…できるだけ多くの新梢を確保する。葉枚数確保ができれば新梢管理を行う。

### 第1回目

- ①展葉初期に不定芽と種枝基部の2芽をかき取る。
- ②樹勢の弱い樹は早目から行う。

## 第2回目

- ①副芽や極端に強い新梢をかき取り、棚の明るさとバランスを保持する。
- ②負け枝を作りやすい部位（主枝分岐部・側枝種枝の基部）は早めに処理する。
- ③5～6枚期以前に強い新梢を除去することにより、基部に近いところまで新梢を揃えることができる。
- ④新梢の重なりを防ぎ、開花時に花房へ日照を当てる事が重要である。  
ただし花振り回避のため、開花前の芽かきは極力弱めとする。（強樹勢）
- ⑤開花中に棚が暗くなっても困るので、樹勢が強く芽数が多く残っている場合は、不要な結果母枝を棚下へ下げて棚の明るさを確保し、実止まり確認後に切除する。



### 2. 種あり巨峰の新梢の誘引作業《新梢勢力の平均化と樹形を整える》

- ①新梢長が30cm～40cm程度に伸びた頃から実施する。
- ②弱い新梢は誘引せず立たせておいて棚面を立体的に活用し、葉面積を確保する。
- ③欠けにくい日中に行い、ねじれぬよう水平に誘引する。

### 3. 種あり巨峰のフラスター液剤散布時期及び方法について

- 1) 散布時期 … 平均的新梢の展葉数で8～9枚目が10円玉位の大きさになった頃
- 2) 散布薬剤 … フラスター液剤 10a当り2～3本
- 3) 調合量 … **水150ℓ当り**

散布日 月 日

アプローチBI …… 200ml  
フラスター液剤 …… 200ml

- 4) 散布量 … 10a当り ⇒ SS・動噴=150ℓ以上
- 5) 散布上の留意事項

- ①生育の状況を観察し適期に散布する。（自根樹は生育が早い、散布時期に注意する。）
- ②フリー樹等、樹勢の強い園はフラスター液剤を500倍（水150ℓ当り300ml）で使用する。
- ③新梢全体（花穂も）に丁寧に散布する。（ツユのある早朝、日中高温時は避ける。）
- ④フラスター液剤の効果を高めるため、花穂によく日光が当たるよう新梢管理を行う。
- ⑤欧州系等は薬害を生じる恐れがある。他作物も含めかからないように散布する。

#### 4. 種あり巨峰のかん水

- ①かん水は発芽を揃えるため、晴天が5～6日続いたら20～30mm程度実施する。  
ただし、開花7～8日前までに切り上げる。

#### ◆枯死の原因について

成木になると枯死してしまう事例が多くなっています。下記の内容について注意する。

- ①クビアカスカシバの被害にあっている。  
地際部や主枝をよく観察する。粗皮剥ぎ・根元の草刈り実施。  
新梢の樹勢が朝のうちから弱い場合は、元の幹を観察する。発見次第、早期に処理を行う。
- ②前年の養分不足による凍害 軽い場合は着房制限を行い樹勢回復に努める。  
被害が大きい場合は植え替えとなる。
- ③幼木時の着果過多・・・主枝以外の所への着房・早期に着荷負荷（新梢4本に1本は空枝が基本）をかけた分、根とのバランスが悪くなり枯死しやすい。
- ④幼木時の主幹・主枝延長時の無理なひねり・・・数年後に枯死になる場合がある。
- ⑤その他 管理不足・・・かん水不足・摘心不足・土づくり不徹底・病虫害被害・除草不足など

#### 《栽培に関する問合せ》

寺澤（篠ノ井西部・信田）：080-1188-5229／外谷（篠ノ井東部）：080-8048-6602

松橋（松代）：090-4816-6297／佐藤（川中島）：090-7179-9866

根津（更北）080-1203-8576／元田（若穂）282-2002

吉澤（全域・編集担当）：090-2543-0365／営農販売部（本所）：292-0930

#### ○果樹のアドバイザー（流通センター長兼務）

松澤（若穂）080-1191-5166／伊藤（篠ノ井東部）080-2239-6816

松坂（篠ノ井西部）080-1188-4131

《販売に関する問合せ》各流通センター・共選所／営農販売部（本所）：292-0930

《資材に関する問合せ》各JAファーム・営農資材センター・経済部／農業資材課：299-3311